

シネラ

fiaf

国際フィルム・アーカイブ連盟-FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

12
No.11

特別企画

成瀬巳喜男監督映画祭

生誕100年を記念して、成瀬監督の代表作を上映

第一部




Ciné-là

成瀬巳喜男監督 映画祭 第一部

12月1日(木)~18日(日) *休館日・休映日除く
観覧料:600円(大人)500円(大学生・高校生)400円(中学生・小学生)1,500円(3回券)

主催:福岡市総合図書館・映像ホール・シネラ実行委員会
共催:コミュニティシネマ支援センター、(財)国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)
フィルム・写真提供:東宝株式会社

*定員制、各回入替制。*チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
*障がい者の方及び福岡市在住の65才以上の方は300円。(手帳の提示が必要です。)
*3回券は障がい者及び高齢者割引なし。また3回券は「第一部」「第二部」共通で使用できます。

めし

流れる

おすすめ

●12月7日(水)14:00
●12月17日(土)14:00



1956年/35ミリ/モノクロ/117分/東宝
監督:成瀬巳喜男 出演:山田五十鈴、田中絹代

モノクロ

成瀬監督は黒澤明や小津安二郎と並ぶ日本映画の巨匠として世界的な名声を獲得しています。成瀬監督の映画の特徴といえば、女性を主人公としたメロドラマであるということです。その生涯の傑作として世界中の監督達から称賛される代表作「浮雲」を初めとして、数多くの傑作を生み出した成瀬監督ですが、今回は「浮雲」の翌年に作られた傑作「流れる」をご紹介します。成瀬映画に登場する男といえば情けない色男が多く、女にお金をたかったり、女を裏切ったりするような男達ばかりですが、一方女性達はそんな男達に振り回されながらも、したたかに力強く生きる女性が多く登場します。本作の原作は幸田文で、東京大川端近辺の芸者の置屋を

舞台としています。「つた屋」という老舗の置屋を営む女主人つた奴を山田五十鈴が演じ、借金返済のため奔走しながらも見事な色気を見せています。つた奴の娘・勝代は高峰秀子が演じ、芸者にならずに自立の道を目指す気丈な現代女性を演じます。この「つた屋」にお手伝いさんとして住み込むのが田中絹代演じるお春です。芸者は杉村春子や岡田茉莉子らが演じ、まるで家族のような人間関係が展開されていきます。お春は、経営的には傾きかけた「つた屋」の人間模様を冷静に見つめていきます。出演する女優陣の豪華さだけでも一見の価値ある作品ですが、どんなに苦しくても涙としたつた奴の姿は、女性の弱さだけでなく、強さも描き続けた成瀬監督の象徴とも言えます。

噂の娘

●12月1日(木)14:00
●12月10日(土)11:00



1935年/35ミリ
モノクロ/57分
P.C.L.
監督:成瀬巳喜男
出演:千葉早智子、梅園龍子

モノクロ

老舗の酒問屋「灘屋」には家計を切り盛りする長女の邦江とその姉にことごとく反抗する次女の紀美子という二人の娘がいた。紀美子は父・健吉が妻のお葉に産ませた子供だった。古風な姉と現代的な妹との対比を軸に描かれた成瀬のオリジナル・シナリオによる佳作。

妻よ薔薇のやうに

●12月2日(金)19:00
●12月11日(日)11:00



1935年/35ミリ
モノクロ/74分
P.C.L.
監督:成瀬巳喜男
出演:千葉早智子、丸山夢夫
福岡市総合図書館
収蔵作品

女流歌人の山本悦子の夫、俊作は砂金を求め山を歩き、妻子を捨て愛人のお雪と暮らして、二人の子供まで作っていた。それでも俊作のことを忘れられない悦子を見て、娘の君子は父を迎えに行くが…。戦前の成瀬巳喜男の代表作の一つ。

まごころ

●12月2日(金)14:00
●12月10日(土)17:00



1939年/35ミリ
モノクロ/67分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:高田穂、入江たか子
東京国立近代美術館
フィルムセンター収蔵作品

モノクロ

とある銀行の専務を務める敬吉は、婿養子で妻とあまりうまくいっていない。娘の信子の親友、富子は父と死別し、母の篤子と情ましく暮らしていた。ある日、富子は敬吉と篤子が若かりし頃に恋人同士だったことを知るが…。少女達の描写に新鮮さを見せる佳作。

三十三間堂通し矢物語

●12月 3日(土) 11:00
●12月14日(水) 14:00



1945年/35ミリ
モノクロ/76分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:長谷川一夫、田中絹代
東京国立近代美術館
フィルムセンター収蔵作品

ユリカ

通し矢の勝負に敗れて切腹した父親の無念を晴らすべく、三十三間堂での通し矢、八千本に挑むため、弓術の修練に励む和佐大八郎。そんなとき大八郎は通し矢挑戦を邪魔しようとする一味に雇われた浪人達に襲われる。そこに偶然いあわせた唐津勘兵衛が彼を救うが…。戦争末期に、成瀬巳喜男が初めての挑んだ時代劇の秀作。

めし

●12月 3日(土) 14:00
●12月15日(木) 14:00



1951年/35ミリ
モノクロ/97分
東宝
監督:成瀬巳喜男
主演:上原謙、原節子
福岡市総合図書館
収蔵作品

結婚五年目、子供はなく、生活に疲れて倦怠期に入った初之輔と三千代。ある日、家出してきた初之輔の姪、里子が現れ…。原作は未完となった林芙美子の遺作であり、成瀬が初めて林文学を手掛けた作品。戦後の低迷から抜け出す契機となった作品で、彼の代表作の一つでもある。

稲妻

●12月 3日(土) 17:00
●12月15日(木) 19:00



1952年/35ミリ
モノクロ/87分
大映
監督:成瀬巳喜男
出演:高峰秀子、三浦光子
福岡市総合図書館
収蔵作品

バスガイドをしている清子は父親がすべて違う三人兄弟がいた。ある日、次姉の夫・呂平が急死。そこへ彼の愛人だったつが子供を連れて現れる…。性格の異なる三人姉妹と彼らを取り巻く人間模様と愛憎を鮮やかに描いた名作。

山の音

●12月 4日(日) 11:00
●12月10日(土) 14:00



1954年/35ミリ
モノクロ/94分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:原節子、上原謙
福岡市総合図書館
収蔵作品

弱夫婦と同居する菊子と夫の修一には子供がなく、修一は外に女を作り、遅い帰宅が続いていた。それと知りながらじっと耐えている菊子を舅の信吾は不憫に思い、彼女に優しく気遣う。そんなある日、修一の妹・房子が夫に愛想をつかし、娘を連れて家出してくる。川端文学を成瀬流に表現した意欲作。

晩菊

●12月 8日(木) 14:00
●12月11日(日) 14:00



1954年/35ミリ
モノクロ/102分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:杉村春子、上原謙

芸者あがりの倉橋さんは今では金貸しや土地売買を営み、昔の芸者仲間にも金を貸していた。ある日、きんのもとへ昔の情人、田部から会いたいという手紙を受け取る。林芙美子の短編「晩菊」、「水仙」、「白鷺」を合わせ、花柳界上りの四十女のそれぞれを描いた好編。

浮雲

●12月 4日(日) 14:00
●12月16日(金) 19:00



1955年/35ミリ
モノクロ/123分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:高峰秀子、森雅之
福岡市総合図書館
収蔵作品

戦時中、仏領インドシナで知り合い、恋に落ちたゆき子と富岡。戦後、遅れて引き上げた幸子は富岡を訪ねるが、彼は妻と別れておらず、煮え切らない態度だった。途方に暮れたゆき子は外国兵の囲われものとなるが…。成瀬巳喜男の代表作で日本映画史に残る名作の一つとなった作品。

あらくれ

●12月 8日(木) 19:00
●12月17日(土) 11:00



1957年/35ミリ
モノクロ/120分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:高峰秀子、上原謙
東京国立近代美術館
フィルムセンター収蔵作品

ユリカ

時代は大正初期、勝ち気なお島は親の決めた結婚を嫌がり、結婚式の日に逃げ出して上京、今は缶詰屋の後妻となっていた。しかし、二人の間には喧嘩が絶えず、ついに喧嘩の弾みで階段から落ちたお島は流産してしまい、実家に戻されてしまう。かねてから徳田秋声に傾倒していた成瀬が「浮雲」のスタッフ・キャストで描いた激しい女の半生。

女が階段を上る時

●12月 9日(金) 14:00
●12月17日(土) 17:00



1960年/35ミリ
モノクロ/111分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:高峰秀子、森雅之

未亡人の圭子は、銀座の雇われマダム。彼女の店のホステスだったユリは、店の上客、美濃部の出資で店を構えた。圭子は店を代わり、上客から小口の借金をしてまわり、自分の店を持つことにした。そんなとき、狂言自殺を図ったユリが誤って命を落とした…。夜の世界に生きる女が非情に激しさを流されていく姿を描く。

乱れる

●12月 9日(金) 19:00
●12月18日(日) 11:00



1964年/35ミリ
モノクロ/98分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:高峰秀子、加山雄三

礼子は森田屋酒店に嫁入りするが、夫に先立たれて再婚もせず店を切り盛りしていた。そしてこのところ近所にスパーが出来て、店の客が減っているのが悩みであった。森田屋には東京の会社を辞めてブラブラしている義弟の幸司がおり…。成瀬巳喜男の晩年の代表作の一つ。

乱れ雲

●12月16日(金) 14:00
●12月18日(日) 14:00



1967年/35ミリ
カラー/107分
東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:加山雄三、司葉子

ユリカ

江田宏は仕事も順調でまさにこれからという時に交通事故で亡くなってしまふ。相手の車を運転していた三島史郎は裁判では無罪となったが、道義的責任から宏の妻・由美子に毎月示談金を支払うことになった。史郎は左遷され、婚約も解消。由美子も実家から離婚されて郷里に戻った…。成瀬巳喜男の遺作となった作品。

成瀬巳喜男

なるせみきお

プロフィール Mikiō Naruse

1905年東京生まれ。生活のため15才で松竹蒲田撮影所に小道具係として入社。29年にドタバタ喜劇「チャンバラ夫婦」で監督デビュー。「夜ごとの夢」(33年)がキネマ旬報第3位となり高い評価を受ける。34年トキを撮りたいとP.C.L.に移籍。「妻よ薔薇のやうに」(34年)でキネマ旬報第1位を獲得、名監督の仲間入りを果たす。37年女優千葉早智子と結婚する。しかし戦争が激しくなるにつれ、成瀬監督はスランプの時代を迎える。40年に離婚し、わびしい一人暮らしとなる。戦争映画や反戦映画に興味の持てない成瀬監督が戦後高く評価されたのが林芙美子原作の「めし」(51年)であった。以後「山の音」(54年)「浮雲」(55年)「流れる」(56年)など、戦後の日本映画の黄金期に珠玉の作品群を生み出していく。「俺にできない」シャシは溝口の「祇園の姉妹」と成瀬の「浮雲」だ」と小津安二郎が語った逸話はあまりにも有名である。その後も「女が階段を上る時」(60年)「乱れる」(64年)などメロドラマの傑作をてがけ「女性映画の名手」として確固たる地位を確立する。69年死去。生涯に残した作品は89本ののぼる。



